

新たな江戸時代の魅力を続々発掘

江戸時代
庶民文庫

庶民の暮らし・知恵、社会の諸相が生き生きと展開
多彩・豊富・貴重な「版本」で時代に肉迫！

第1期
全60巻・別巻1

好評完結

全収録内容

*各巻分売可

学術資料出版
大空社出版

【収録資料の分野(ジャンル)・点数】

女性 [5分野 30点]

女性百科 / 女子教訓 / 風俗・遊女 / 産育 / 家政

ことば [3分野 23点]

語彙 / 道歌・俚諺

道徳・教育・宗教 [6分野 101点]

仏教(臨終行儀、往生、放生など) / 教訓 / 法令・教諭 / 礼法 / 教育 / 神道 / 祭祀

その他 [8分野 43点]

食生活 / 養生・医学 / 諸芸 / 暦占 / 遊戯 / 便覧・年代記 / 地誌・外国地誌 / 救荒・防災 / 産業・経済

いまにつながるテーマ、江戸時代だからこそその
多種多様な題材が満載！

約200点、総約22,800ページから
知りたい情報をすぐ見つけたい…

たとえば…

「地震」

江戸時代庶民は「地震」に
どんなイメージを抱いていたか
知識と情報は、生活との関連は？

「別巻」『江戸庶民の生活を知る』で
たちどころに捜せます！



【体裁：A5判・上製・クロス装・660頁】
ISBN 978-4-908926-02-0
(2016年12月刊)

本体 28,000円(税別)

「江戸時代」はこの1冊から！

「江戸庶民」の生活を知る

江戸時代庶民文庫
別巻「解題・索引」

《解題》①『江戸時代庶民文庫』全60巻に収録した22ジャンル約200点の資料の解題(書誌情報と内容概説)を収録。本巻刊行後の新知見を加え、参考図版も追加するなど、既収録の解題内容を更新した決定版。②「主要目次」は資料本文中からキーワードを抽出しページを示したもので、解読しにくい資料の内容を知る格好のツールとなっている。

《索引》①索引(事項・人名・書名)約170頁・索引語総数約5250は江戸庶民の生活・思想にアクセスするキーワードの宝庫。②「収録文献索引」2種＝『庶民文庫』収録文献(五十音順)と、『庶民文庫』(全60巻)＋『江戸時代女性文庫』(全100巻)の収録文献をあわせ「分野別」に編集。さらに『女性文庫』収録文献目次も添え、江戸研究に必見の2大資料を横断する至便なツールとした。

江戸時代庶民文庫

解題・小泉吉永(法政大学
講師)

第1期

全60巻

(第1～60巻)

全8回配本(2012～2016)

完結

別巻
「解題・索引」

「江戸庶民」の生活を知る

好評配本中

第2期

全40巻

(第61～100巻)

全8回配本(2018～
2021予定)

今日「江戸時代」への関心、注視の度合いは高まるばかりです。本文庫は、江戸時代庶民の生きる知恵と技術、生活の実相を知る史料(版本)を精選し影印集録するものです。第1期全60巻には約二〇〇点の様々な領域を収録し、さらに、これらを縦横に活用するための別巻(解題・索引)を作成しました。ご好評いただいている第1期に続き、このほど(第2期)全40巻の刊行を開始し、本文庫が江戸時代史料の一層充実した宝庫として広く活用されることを願っています。なお、第2期開始にあたり、既刊の第1期を含め、全巻を分売可能とし、ご希望の巻のみでもお求めになれるようになりました。ご利用ください。

学術資料出版

大空社出版

*
2018年11月

江戸時代庶民文庫

第1期

全60巻(第1~60巻)

全収録内容

[収録資料点数]

*各巻分売可

(分売価格一覧は

p.11)

*収録図版より(収録巻)

1巻【女性百科】「1点」

①女芸文三才図会(おんなげふんさんさいさんいずえ) 三代目吉文字屋市兵衛(鳥飼昭・醉雅)編・序。潜電溪美啓補。三浦茂樹序。天保12(1821)▽大阪書肆・吉文字屋市兵衛板の女子用往来数点を組み合わせたもの。「十二月和歌」「蹴毬和歌」「百人一首」等の和歌・教訓歌、「幼女そだて草」「女手習状」「女膳方百箇条」「教訓百箇条」などの女子教訓、本朝賢女略伝、婚礼祝言・食札等の礼法、香道・化粧その他種々の記事から成る。

2巻【女子教訓】「2点」

①女要訓和歌文庫(おんなまこと) 桃江舎漁舟作・跋。長谷川光信画 板木彫刻は難波屋利兵衛。寛保3(1743)▽『栄花物語』箒木巻前半部の「雨夜品定」をモチーフにした異色の女子用往来。

3巻【語彙】「2点」

①万宝女節用器粟囊(ばんぼうおんなせつようぶくろ) 山本序周編。享保6(1721)▽天地・神祇・人倫・年月・衣食・草木・生類・器財・言語の9部門で、御所言葉などの女性語を集めた節用集。

4巻【女子教訓】「3点」

①女今川以呂波文(おんないまがわいりはふみ) 北尾辰宣(仁右衛門・雪坑齋)作・画。明和3(1766)▽明和2年11月出願の『女七宝操庫』の改題本(出版直前の改題のため「女七宝操庫」での出版は皆無か)。「セツいろは」にならって女子の心得となるべき金言・俚諺などをイロハ順に7語(7行)ずつ書き出した教訓。

5巻【風俗・遊女】「3点」

①漫画百女(まんがひゃくおんな) 合川亭珉和画。灌河山人(文屋茂喬・売書翁・ふみ売の翁・吉田屋新平衛)作・序。文化11(1814)▽江戸後期の女性風俗を描いた三色刷りの絵本。

6巻【諸芸】「4点」

①当流謡指南抄(とうりゅううたさしりょう) 作者不明。元禄9(1696)▽謡本の出版が最盛期を迎えた元禄期の代表的な謡曲教則本。

7巻【曆占】「3点」

①天竺二靈感観音籤(てんたくにんげんくわんおんせん) 三笠軒一任子作・跋。寛文2(1662)▽観音菩薩の化身のお告げで吉凶を占う「観音籤(大土籤)」の解説書。

8巻【遊戯】「4点」

①秘事百撰(ひしひゃくせん) 福井智徳齋作。文政10(1827)▽主に面相の十三部位・十二宮による善悪吉凶の要点を記した簡易な小冊子。前編は100項を掲げ、後編は全50項。非実用的な奇術が大半を占め、総じて、一種の宴会芸・余興集である。

9巻【仏教(臨終行儀)】「3点」

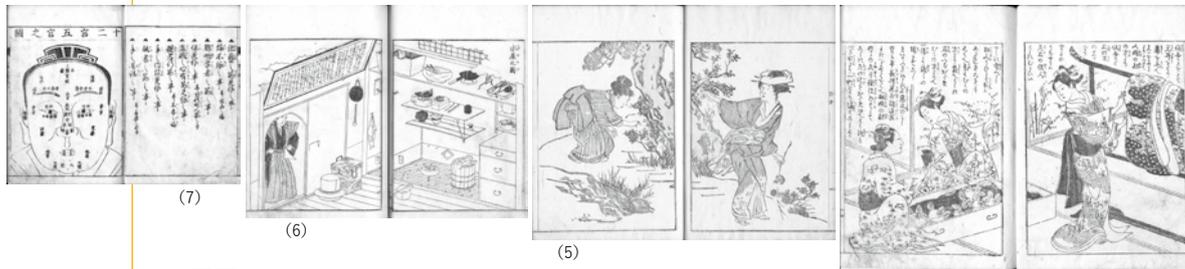
①善悪ヲ明ス(ぜんあくをみらふ) 十二カ条、中巻「実ノ道ヲ明ス」15カ条、下巻「臨終正念、往生極楽ノ心ヲ明ス」10カ条の三巻に分けて説く。

10巻【四要篇】「1点」

①四要篇(しやうえん) 関通(向誉)・法岸(光誉)作。文化13(1806)▽西円寺住職として地域の民衆教化に尽力した法岸が文化12年12月5日に入滅したのを機に、法岸が長年にわたって講じてきた向誉関通の遺書三編に、法岸の遺稿を

11巻【新法狂字図句画】「1点」

①新法狂字図句画(しんぽうきやうじずくわ) 万享応賀作。安藤広重(一立齋)画。江戸後期▽文字で描いた「文字絵」に狂句を加えた戯作。



第1回配本(1~8巻)

添え、『四要篇』と題して刊行。

10巻【**仏教(往生)**】「3点」 ①**女人往生章**(にょにんじやう) 洞空(とうくう)慈泉(じせん)編。延享1(1784)▽主に女人往生に関する疑問に答える形で、女性が往生し成仏し得る所以を説いた浄土系の仏教書。 ②**贈貴族女性法語**(おくりきやくじやうにほむべきことば) 釈超然(しゃくせうぜん)作。天保3(1832)▽近江国神崎郡福室村の覚成寺住職の超然が、江州薩摩村・善照寺了観の室(葉室頼寿卿息女)の懇望により著した真宗系の教訓書。 ③**大経五悪図会**(だいけいごあくずゐ) 東奥法照山(とうおくほうしやうざん)作・序。弘化5(1828)▽人間の善良な心を害する三毒(貪欲・瞋恚・愚痴)のあらましや、これらの悪心が招く悪因果の理を豊富な図解を交えて勸善懲惡(くわんぜんちやう)や信心を促した浄土宗系の教訓書。

11巻【**仏教(仏教一般)**】「4点」 ①**孝子善之丞感得伝**(かうしよぜんじやうかんとくでんでん) 直往(ちやうかう)〔松野善之丞(まつのぜんじやう)著(口述)〕。称阿(しやうあ)〔厭欣沙門(えんきんさもん)編・跋〕。林丹治(りんたんぢ)豊信(ゆへい)画。天明2(1783)▽父(松野善四郎)の病氣平癒祈願のため地元の観音堂や葉師堂を参拝した奥州伊達郡南半田村の孝子善之丞が、地藏菩薩の導きによって地獄および極楽めぐりをした体験を記した実録書・勸化本。 ②**彼岸状**(ひがんじやう) 作者不明(樋口伊之輔(ひぐちいのみすけ)か)書。文化15(1818)▽北山村(岐阜県山県郡)または和歌山県東牟婁郡(か)住人の樋口伊之輔(15歳)が自ら揮毫し自ら用いた手習本。仏節に基づく死後の世界、即ち、閻魔王によって生前の善悪が裁かれるまでの経緯やその後の行先である地獄や極楽など、彼岸のあらましを記したものである。 ③**三世乃道歌**(さんせいのみちうた) 推翁(すゐ)禪師(ぜんじ)作・画。文政11(1828)▽「仏法はひくふとくほど道おほく 魔説(まごつ)におちて人ぞまどへる」から「おさな子もいふことやすぎ道なれど おこなひがたき諸悪(しよあく)莫作(なげな)す」までの道歌100種を収めた仏教系の絵入道歌集。 ④**潤家潤身**(じゆんけあじゆんみん) 徳道(とくたう)〔徳本行者法孫(とくほんぎやうじやうほふ)作〕。江戸後期▽「怠らぬ夏のかせぎのほどども穂にあらはれて出る秋の田」のような道歌一首を掲げて導入とし、種々の金言や教説を引きながら道歌の趣旨を敷衍するという形式で綴った浄土宗系の教訓書。

12巻【**仏教(放生)**】「6点」 ①**商家繁榮 農家豊作** 重宝記(じゆうほうき) 民家豊饒(みんけあほう)重宝記(じゆうほうき) 森住万願堂(もりぢまんのう)〔柳意(りゅうい)編・序〕。弘化2(1825) 嘉永1(1828)▽牛馬の殺生防止と放生推進のために、大阪の森住万願堂が発起人となり、老牛馬放生元の春木屋吉兵衛(はるきやきちべゐ)や摂州八部郡西須摩村住民らが協賛して施印した啓発パンフレット。 ②**放生歡喜州**(はうじゆんきしゆ) 念阿純称(ねんあじゆんしやう)〔京南伏水誓願寺(きやうなんふくすゐせがねん)作〕。速水春曉(すみづはるけい)画。文化13(1806)▽湖南の鉄翁居士(てつおうじ)の依頼により著した草稿を童蒙用に添削して上梓した浄土系放生教訓書。 ③**誠殺放生文**(まこところすはうじゆん) 山城国鞍馬山某閣梨(やまのくにあまのやまのあつり)作。天保7(1836)▽冒頭の「殺生因縁六斎日(ころすじやういんねんろくさいにち)の事」で殺生・放生と因果応報の道理を詳述し、せめて毎月の六斎日だけでも殺生を慎み放生の陰徳を慎むべきことを論じ、放生の際の呪文・経文を示した「放生略作法」を掲げる。 ④**放生勸進録**(はうじゆんしんろく) 作者不明。玉水画。嘉永4(1831)▽永代放生大会を催して加入者の先祖供養とともに毎月魚鳥一万生の放生を行う放生会の入会勸奨用の小冊子。世の中の卑近な事例を引きながら論じ、誰もが望む無病長命・家運繁盛・子孫長久・富貴繁榮・家内和睦を得るための放生を説く。 ⑤**放生手引草**(はうじゆんていしやく) 諦忍(ていにん)〔妙竜(せうりゆう)雲蓮社空華(うんれんせやくわ)作〕。序。嘉永6(1833)▽尾張国八事山興正寺五世の妙竜が晩年に著した真言系の放生教訓書で、死後半世紀以上を経た嘉永年間(1824-1830)に上梓されたもの。 ⑥**法義家内示談**(ほふぎけいけいだいじだん) 浄満寺(しやうまんじ)〔湖東野洲(ことうのしゆ)〕。嗣講師某(すいこうし某)述。万延1(1860)▽湖東野洲の浄満寺の僧侶某が「家内和合を専らにをしへ、生ては家富榮、死ては浄土に生るの金言、二世安樂の要道」を説いた法話「家内示談」に挿絵を施し上梓した真宗教訓書。

13巻【**語彙(通俗辞書)**】「3点」 ①**疊辞訓解**(じやうじけんげ) 白雲居士(はくうんけし)編・跋。延宝9(1681)▽同一の漢字を重ねて物事の状態などを示す疊字ばかりを集め、天文・地理・宮室・時令・人物・鳥獸・蟲魚・人事・花木・文史・珍寶・衣服・飲食・器用・彩色・数目的16分類に分けて掲げた国語辞書。 ②**授幼難字訓**(じゆじゆなんじけん) 井沢長秀(いざわながひで)〔竜(りゆう)竜子(りゆうし)編〕。序。享保12(1727)▽和漢諸書から難しい漢字の和訓を集め、「いにしへの訓をば大やうはぶき、しばらく俗間のいやしきことばにかへ、冒頭第一音のイロハ順に配列した童蒙用の語彙集。 ③**童子要字海絵抄**(どうじようじやうかいしやう) 作者不明。江戸中期(安永頃)刊行。▽職業別に日用語を集めた「農家用文字尽」「商家文字尽」、手紙用の日常語を集めた「書札要字集」からなる語彙科往来。

14巻【**語彙(通俗辞書)**】「4点」 ①**寺子節用錦袋鑑**(じしよじゆんきんたいかん) 作者不明。寛延4(1751)▽節用集のイロハ分けにならって庶民の日用語を集めた往来物。 ②**増補字節用集**(ぞうほふじゆんじゆ) 浅田恒隆(あさたのちやうりゆう)編。安永5(1796)▽従来の節用集とは異なる語彙を意識的に集めた節用集で、意義分類としての部門分けはなく、語彙をイロハ順に六行・付訓で掲げ、稀に割注を施す。 ③**子供節用集**(こどもじゆんじゆ) 作者不明。文化3(1806)▽文化3年刊「分類早見字尽」2巻本を1巻に合綴した改題本で、前後を整えて23分類とした。 ④**意見早引大善節用**(いけんせいせうじやうだいぜんじゆんじゆ) 為永春水(たみながはるみづ)〔教訓亭(けうくんてい)長次郎(ながじらう)作〕。序。天保14(1843)▽節用集を模して「夫が意見の早引」として綴った戯文調の教訓書。

15巻【**俚諺(俚諺一般)**】「4点」 ①**漢語大和故事**(かんにごだいわごし) 元禄4(1691)▽江戸前期の代表的な俚諺資料の一つ。 ②**心学俗語**(しんがくぞくご) 小林高英(こばやしこうへい)〔高英(かうへい)作〕。序。可笑斎(かうせさい)画。文化14(1817)▽「心学の教とも可成一冊」として「昔より伝へ来る世の諺の仮令」を集めて解説を施したもの。 ③**心学** 以呂波戒(いりなげ)〔以呂波(いりな)作〕。序。文政7(1824)▽作者が児童の玩びに作った「いろは譬」と称する歌カルタを講釈したところ、子供たちが強い関心を示し、これを求める親も多かったため、その趣向でイロハで始まる俚諺・金言類を集め解説した教訓書。 ④**心体安楽丸**(しんたいあんらくがん) 作者不明。江戸後期刊。▽表紙に「第一身を潤し心広く躰胖なるの妙薬」但し、小舎一反を朝夕とも常に用いてよし」と記すように、薬種の効能書に見立てて金言を簡条書きに列記した教訓書。

16巻【**俚諺(道歌等)**】「2点」 ①**和漢詞德抄**(わかんじゆく) 一陽井素外(いちやういそがい)編・序。北尾重政(きたおしげ)画。安永8(1799)▽和漢の名言・名句・名歌等を題材に綴った童蒙絵入教訓書。 ②**鄙都言種**(びとごご) 森島中良(もりしまなかのり)〔森羅子(もりらし)作〕。序。享和2(1802)▽和漢の名言・名句・名歌等を題材に綴った童蒙教訓書『教訓警生草』五冊の第二、五巻に相当する絵入教訓書。

江戸時代庶民文庫・第1期 全60巻 全収録内容



(11)



(12)



(14)



(15)

17巻【養生】「6点」 ①養性百種(ひやくしやう) 曲直瀬道三作。天正17(1589)▽全百首の養生教訓歌集。服薬の慎み、飲食、休養・保養、入浴や飲酒の心得、心の持ちよう、季節の過ごし方、自覚症状と対処法など。道三の養生観も窺える。②養生歌(ようじやうか) 多紀元徳作。寛政6(1794)▽養生の道を庶民に知らしめるには、俚語で綴った和歌が理解・暗誦に有益なことから撰作した養生教訓歌集。③温泉考(おんせんこう) 原雙桂作。寛政6(1794)▽温泉の効用や治療・養生のための湯治や適切な温泉入浴法、温泉の歴史やメカニズムなどについて、和漢の諸書を引きながら記した書。④延寿養生談(えんじゆうせんじやうだん) 谷了閑作。文政3(1820)▽養生や病氣治療・服薬などの心得を庶民向けに平易に説いた養生書。⑤養生論(ようじゆうろん) 久保謙亨作。文政9(1826)▽唐の名医・孫真人の養生法や貝原益軒の「養生訓」に基づき日用養生の秘訣を論じた書。⑥養生主論(じやうじゆうしゆろん) 松本遊齋作。小沢華獄子画。天保3(1832)▽養生の重要性や食生活における心得などを述べた養生書。

18巻【養生】「5点」 ①病家示訓(びやうかじゆん) 加藤謙齋作。正徳3(1713)▽もともと病弱で医者通いが頻繁だったことから医者や病氣に精通し、三十年以上も親類知人の相談に応じた作者が、医者選びの参考に著した書。②些舛(せせん) 原南陽作。文化1(1804)▽陣中で医師が不在の場合の応急処置や治療法などを記した医書、漁獵や野遊びなど野外での事故にも有益とする。③食かゞ美(じきかゞみ) 石川元混作。文政2(1819)▽「日用飲食の能毒・禁忌等を平がなを以て精く記し、食物の名はいろは分にして、一一頭ら字を挙げて搜し求め便からし」めた通俗的な本草書。④田子養生訣(でんしやうじやうけつ) 田中栗山(田中雅楽郎)作。文政9(1826)▽尾張藩医の田中家に伝わる不老長生の術を記した養生書。⑤身体往来(しんたいわらい) 藤村秀賀作。万延1(1860)▽身体に関する基本語彙と若干の心得を綴った往来物。

19巻【産育】「4点」 ①兒相素見(じしやうそけん) 通塵齋作。寛政6(1794)▽抱瘡の症状や抱瘡神、抱瘡と胎毒の関係、夫婦性交の吉凶日、顔色による抱瘡善悪の判断など、呪術的記述を多く含む抱瘡関連の通俗的医書。②秘伝衛生論(ひでんせいじゆうろん) 本井子承(本井伊左衛門・穎川・遥重)作。寛政7(1795)▽子供から老人までの回虫症に関する代表的な医書。③抱瘡心得草(ほうしやうこころしやくそう) 志水軒朱蘭作。寛政9(1797)▽抱瘡ほど親の心を苦しめるものはないが、抱瘡に関する「俗家の用心・心得に成べき書」がないため、専門家の助言を得て、民家の「抱瘡人の介抱の致しかた」を仮名書きで認めたという抱瘡看護書。④小兒医療手引舛(せうじいりやくていびやくしゆいんせん) 藤井見隆作。文化頃▽先行の医書『医療座右』から小児科に関する部分を抜粋したもの。

20巻【産育】「6点」 ①老婆心書(らうばしんしよ) 羽佐間宗玄述、森宗哲他編。文化14(1817)▽天寿を全うするための基本となる産前後の養生や小児病の対処法などを平易に論じた仮名書きの医書。②麻疹必用(ましんひやく) 葛飾蘆庵作。文政7(1824)▽収録順に「痘疹年代記」「麻疹必用」「痘疹必用」の三部からなる仮名書きの医書。③護痘要法(ごてうようぽう) 池田京水(瑞英・大淵)作。天保2(1831)▽森鷗外の著作で一般に知られるようになった洪江抽齋が、池田京水の説をまとめて出版した私家版の通俗的医書。④安産幸運録(あんさんくわんれき) 賀茂熊齋(清行)作。荒本峯拳画。天保9(1838)▽上巻に婚礼の日取りや方位など曆占関係、中巻には産前後の心得や初宮参り、下巻に通過儀礼および修身齊家心得を収録した産育書。⑤絵本目出度舛(えほんめだくせん) 長谷川貞信(雪花園)画。嘉永3(1850)▽抱瘡の心得や妙薬「金随丸」の効能などを軍記物風の戯文で綴った絵本。⑥愛育附言(あいいくふげん) 葦廼舎(亀齡橋隱士)作。安政3(1856)▽折本仕立ての懐中用の小児病手引書。著者による私家版で、漢字のほとんどに振り仮名を施し、箇条書きや短文で簡潔明瞭に記述する。

21巻【教訓】「5点」 ①善悪道中独案内(ぜんあくだうちゆうどくあんない) 志村天目(天目山人ほか)編。竜鱗舎一甫画。寛政8(1796)▽既に流布していた『人間一生善悪両道中独案内』を改編したもので、人間の一生を道中に見立てた勸善懲悪の書。②世渡名所図会(せわたななところずゐ) 作者不明。速水春曉齋画。享和2(1802)▽人間一生の心得を名所廻りの旅路に見立てて説いた戯文で、見開き挿絵を随所に掲げて名所図会風にする。③七福神利生伝(しちふくじんりせいでん) 段塚六郎左衛門作。文化1(1804)▽「七福神のきらひ給う七ヶ条」を中心に生活心得を述べた心学系教訓書。④人間要路用心袋(じやうげんようじゆうしん) 作者不明。天保15(1844)▽正直・慈悲・忠孝・年回法事・俚約・隠徳・誠心・家業出精・四知等を説いた教訓書。⑤善悪迷所図会(ぜんあくめいところずゐ) 溪齋泉泉作。弘化2(1825)▽『善悪道中独案内』にならい、人間の一生を道中の路程に譬えて勸善懲悪を説いた滑稽本。

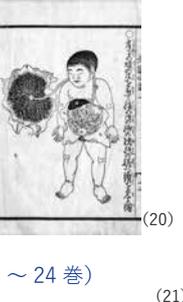
22巻【教訓】「4点」 ①むかしありしこと 山本北山作。寛政9(1797)▽書名のように過去の実話を絵解きした勸善懲悪の書。②教訓童草(きょうじゆんどうそう) 小沢種春(柳園種春ほか)作。文政10(1827)▽故事・略伝・逸話など作者が見聞した話を集め、随所に図解や教訓歌等を添えた教訓書。③教訓古今道しるべ(きょうじゆんここんだうしるべ) 小野弘度(蝠翔齋ほか)編。天保8(1837)▽倉敷の絹商人である作者が諸国行商の折に約30年かけて書き溜めた道歌等を精選し一書にまとめた心学書。④教訓宝入船(きょうじゆんたからぶね) 作者不明。江戸後期▽主として仏教(法華経)によりながら、神儒仏の三教から町人世俗の教訓を説いた絵入りの教訓書。

23巻【教訓】「3点」 ①農家童子訓・海隅田舎草紙(いんげんどうしゆん・かいぐみたなぐさし) 中村郷左衛門(慎行)作。文化6(1809)▽長崎県対馬地方で使用された往来物。②下民小学(かみんがく) 知足庵(南総周准郡大鷲村住人)作。文化12(1815)▽全33カ条と後文で庶民向けの教訓を綴った往来物。③在郷童教訓書(ざいけうどうきょうじゆんしよ) 原三省作。安政2(1845)▽二間手村(現・岐阜県郡上市)に住む作者が地域の庶民子弟用に編んだ往来物。

24巻【教訓】「2点」 ①忠孝道の栞(ちゆうけうだうのしやく) 有隣堂谷神作。芳田月長画。文政2(1819)▽戯れ歌と戯画の絵解きを交えて忠孝等を論じた平易な童蒙教訓書。②三教童諭(さんけうどうごん) 思恩堂非得(非徳)作。文政3(1820)▽神儒仏に教えるの違いはあっても究極は勸善懲悪にはかならないことから、主に人口に膾炙した俚諺の解説と絵解きによって人道を説いた教訓書。

25巻【家政】「3点」 ①万宝智恵袋(ばんぼうちゑいぶくろ) 三芳梅庵作。君山子(洛下隠士・金玉満堂)序。享保10(1725)▽上巻に天文・地理・時節、中巻に衣服・飲食・居室・医薬、下巻に禽獣虫魚・草木・詩歌・雑事の合計二門(目録による)に分けて種々の知識や生活上の秘訣などを集めた書。内容は医薬関係が圧倒的に多い。②俗家

(17)



第3回配本(17~24巻)

重宝集（ほうほうしゅう） 劉卜子（豊副道人）作。文政7（1824）▽題簽題傍書に「めうやくの秘伝／まじなひの秘法」と記すように、本文に「奇薬の部」、頭書に「奇徳の部」を収録した家庭医療・生活関連書。「奇薬の部」は、「時疫の奇薬」から「後座下す奇方」までの50カ条で、怪我・疾病等の薬や予防法などを簡潔に記す。③**秘事新書**（ひじよ） 本木昌造（点林堂）作・序。慶応4（1868）▽日本の活版印刷技術の礎を築いた本木昌造（1824～75）が生活関連の西洋知識や技術、日用品その他の各種製法を記した書。凡例によれば洋書中に見出した記事や西洋人から直接聞いた話などについて実際に実験し、うまく行かない場合には何度も西洋人に質疑するなどして「確実正當なる」情報を収録したとする。

26巻【家政】「2点」 ①**大全針刺宝**（せんせいはかり） 作者不明。西川竜章堂書。文政8（1825）▽書名は裁縫関連書を思わせるが、実際は、女性の手紙文例集である女用文章に種々の生活関連記事などを加えた女子用往来。「年始の文」から「年忘に招文・同返事」までの66通の女用文章が本書の中心で、五節句や通過儀礼に伴う祝儀状、その他吉凶事にまつわる手紙、また、誘引状・依頼状その他諸事の手紙の順に掲げる。②**女伝心鈔**（おんなでんしんせう） 作者不明。玉水画。嘉永4（1851）▽裁縫・調理・曆占・通過儀礼・産育・四季礼法・年中行事等に関する記事を集めた女性教養書で、言わば女性用「重宝集」兼「大雑書」。「年徳神の事」「ぬいそめの事」「女伝心の事」「煮焚の事」「女言葉遣ひの事」など64項目と「巾着仕立上の事」「くはんせ形巾着の図」を収録する。

27・28巻【家政】「1点」 ①**錦囊智術全書**（きんなんちじゆぜんしゆ） 吉文字屋市兵衛編。嘉永4（1851）▽次の4点を集めた生活百科の叢書で、第1冊「目錄」に新たに部門別（天地時候・占妙術・人物薬方・容飾香・衣服・器財・生類・艸木飲食の8門）イロハ分けの索引を施す。収録書は、収録順に（1）入江貞庵編、享保9（1724）刊『百工秘術前編』（江戸）竹田藤助板*智工・器工・食工・女工・磁工・雑工の6門、（2）藤井政武編、享保8刊『拾玉統智恵海』（京都）著屋勘兵衛板*部門分けなし、（3）藤井政武編、享保9刊『拾玉新智恵海』（京都）著屋勘兵衛板*部門分けなし、（4）藤井政武編、享保頃刊『拾玉智恵海』（京都）著屋勘兵衛板の増補版（増補版の刊年不明）*智術・伝授・入用・料理・燭火・秘療・選奇の7門。

29巻【家政】「4点」 ①**料理秘伝抄**（りょうりひでんせう） 伊兵衛作。貞享1（1684）▽寛永20（1643）刊『料理物語』を抜粋した改題本で、底本は寛文10（1670）初刊『料理秘伝抄』改題版。種々の料理・調理法の要点が記され紹介されており、料理名などを囲み野で目立たせてある。また、本文中に「本膳菓子七色」図と、見開きの「婚礼祝言図」「台所風景図」掲げる。②**当流節用料理大全**（たうりゆうせつようりょうりだいぜん） 高嶋某（四条家）編。正徳4（1714）▽本書は正徳板のみで重版の形跡がないが、先行書の記事も意欲的に取り入れた当代の総合的な料理書の一つとして重要であろう。記事は「料理物語」「式正包丁料理切形秘伝抄」「合類日用料理抄」「茶湯献立指南」その他を参酌したものという（『家政学文献集成・続編 江戸期II』の解説による）。③**経済をしへ草**（けいぎをしへくさ） 高井蘭山作・序。天保4（1833）▽あらゆる面での儉約を勧め、雑穀や種々の糧の中で無知のために活用されていないものがあることを指摘したうえで、「草木の食料になるべきものを、さまざまの書より抜粋して凶年の用に」役立つための本書を刊行した経緯を記し、食用への加工方法や調理法、禁忌・解毒法など救荒食のあらましを綴る。④**漬物早指南**（つけものはやしずかん） 小田原屋主人作。東

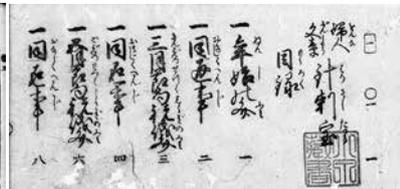
味噌漬・奈良漬瓜など各地の漬物64品の製法の手順や秘訣を説いた書。

30巻【教訓】「2点」 ①**民家分量記**（みやかひりょうき） 常盤澤北（貞尚・堯民）作。成島錦江（信遍）序。享保11（1726）▽野州・総州など北関東各地を遊歴して民衆教化に努めた作者の講話集。庶民向けに天地・人倫の道や「分量」すなわち、分を弁えた生き方を説いた教訓書。②**民家童蒙解**（みやかどうもうかい） 常盤澤北（貞尚・堯民）作・序・跋。竿舎兆翁序。元文2（1737）▽前掲『民家分量記』の続篇として編まれた講話集。本文中の記載から、享保19年3月から同20年5月にかけて北関東を歴訪した際に武州八王子や上州松井田（俣田千之宅）などで門人の要望で執筆したことが分かる。

31巻【教訓】「4点」 ①**貝原先生家訓**（かいげんせいしんかじゆん） 伝貝原益軒（篤信・損軒）作（後人による偽作とする説もある）。赤松勲（蘭室・大業・太郎兵衛）序。部関牛画（巻頭口絵）。宮本集（繩祖）跋。貞享3（1686）▽益軒が子孫のために綴ったとされる家訓を上梓したもので、「聖学須勤」「幼児須教」「土業勿怠」の3章合計20カ条から成る。貝原家では15歳になったり以上の家訓を代々相伝すべきことを後文で述べる。②**明君家訓集**（めいきんかじゆんしゅう） 室鳩巢作。江戸中期▽賢君の本務とともに家臣の心得全般を述べた家訓で、正徳5（1715）刊『明君家訓』に挿絵を施した改題本。『明君家訓』は広範な流布を遂げた一方で異称が多く、長い間、原作者不明のまま刊本や写本で流布した。③**因士子教訓**（いんししこけいじゆん） 嶋田半左衛門（浄雲）作。伊藤某（上来海村*現・松江市）書。元文頃▽因州鳥取藩士の嶋田半左衛門が讒言により伯州河村郡で浪人になった後、同所で剃髪して浄雲と改名し、田畑を買収求め12歳になる半治郎の教育にあたったが、その際に「毎朝一編ずつこれを読むべし」と書き与えた教訓書で、しばしば手習本として使用された。④**貞丈家訓**（ていぢやうかじゆん） 伊勢貞丈（平蔵・安齋）作。屋代弘賢（輪池・詮賢）校・序。松山堂序。山本沢彭（長孝）跋。宝暦13年（1763）▽武家故実家として知られる伊勢貞丈が47歳の時に子孫に書き残した家訓を上梓したもので、教訓書として広く普及した。

32巻【教訓】「1点」 ①**訓蒙勸孝録**（くんまうかんこうろく） 平井庸慎（主善・守善・舟山）編。馬杉恭（謙亭）・和氣朝臣（惟亨・平井敬恭）序。石原房貞跋。速水春曉（斎画）序。文化13（1816）▽凡例に「孝経」の四、五章の意と『小学』の書に孝悌のことをいへるを主として、其ことの類ひによりて篇をわかち聚め侍り。『孝経』『小学』の教えを核に、勸孝の契機となる金言・故事や和漢の孝子伝などを集めた絵入り教訓書。

33巻【教訓】「4点」 ①**堪忍袋**（かんにんぶくろ） 行願（大進庵・如意庵）作。宝暦8（1758）▽真言宗僧侶が堪忍のあらましを論じた絵入教訓書。堪忍にまつわる俚諺金言や譬喩逸話の数々を引いて堪忍の必然性や重要性を強調。②**和語陰陽文絵抄**（わごういんやうもんえいせう） 南里亭其業編。文政3（1820）▽秀吉の朝鮮出兵に明軍を率い日本軍を撃



(26)



(29)



(31)

退した学者が子のために著した『陰陽録』の趣旨に沿い、和漢の伝記等を集録した絵入教訓書。③《通俗》太上感心編(とうじょうかんしん) 玉齋画。文政6(1823)

▽太上老子のお告げをまとめ宋代以後の中国に普及した勸善懲惡の教訓書。本文を、大字・六行・楷書で綴り数句毎に行書の割注を施した。④《増補絵抄》和字功

過自知録(わごしちりく) 株宏編。天保9(1838) ▽中国伝来の修行法を日本風に改変し日常生活における勸善懲惡の実践を促した。当時の庶民社会における善惡の

価値基準が窺える史料。

34卷【教訓】「5点」 ①ふみ鏡(ふみかみ) 法忍作。宝暦8(1758) ▽神道を主とした三教一致論の社会教化運動を实践した天台宗僧侶が、士農工商・医師・僧侶・町人・

女人等の道・心得等を記した教訓書。②初学心得草(しりょうしんこくそう) 涵養齋陳人編。文化11(1814) ▽博学でも「敬」の修行を欠く者は孔門の徒にあらずと戒め、「持敬」

が学者第一の修行と説く、道を知る修行の基本を論じた小冊子。③達道弁(たつどうべん) 伊東照方作。天保8(1837) ▽「君臣之義」「父子之親」「夫婦之別」「兄弟之序」

「朋友之信」に分け、漢籍の一節や古語俚諺等を引いて「五倫」を概説した小冊子。④修斉訓(しゅうせいしん) 山本邦好作。直彦・淇水(蝸庵)画。安政4(1829) ▽人倫

や処世訓、陰徳や積善、慈悲心、儉約、知己・知足安分、因果応報等を記した絵入教訓書。漢語の多くに字音字訓を施す。⑤齊家録(せいけりく) 飯島慶光(竜田翁)作。

安政5(1838) ▽衣食住・金銀・精勤・治家・婦女子・君臣・父子・学問等13項に及ぶ簡潔な生活心得を、作者が子弟と門弟のために著した教訓書。

35卷【教訓】「4点」 ①利運談(りうん) 八隅中立作。長谷川雪旦画。文化13(1816) ▽害運を避け利運に就くための心得を説いた絵入教訓書。寓話や比喩を通じて利

運をもたらす秘訣や心得を述べ纏わる故事来歴を紹介。②童諭宝富草(どうごんほうふそう) 福田陳人作。文政7(1824) ▽諸書より童蒙向けの諸教訓を集めた絵入教訓書。

いろは短歌等を引いて幼時の躰を教え、親孝行・女子三従・育児・五常等にも言及する。③童子訓(どうじしん) 作者不明。江戸後期 ▽七五調の美文体で童蒙

心得を記した小冊子。幼少時の教育の重要性を述べ、学業や芸能についての心得、礼儀作法や孝行などを説く。④童子訓(四三力条)(どうじしん) 作者不明。江戸後期

▽童蒙初学の教訓として綴られた長短合わせて43力条から成る教訓書。忠孝・奉公等武士の役割を中心に武家生活諸般の教訓を綴る。

36卷【教訓】「5点」 ①童子常の心得(どうじじょうのこころえ) 篠原門次作。江戸中期 ▽両親に対する態度や言葉遣い等孝行の実践例を中心に説く教訓書。都々逸や道歌等付録記

事や本文の記述には石門心学の影響が色濃い。②童子手引草(どうじてりょうそう) 稲垣丘山作。文化13(1816) ▽古人の教訓や金言から家業出精や身の養生の心掛け等

孝行のあらましや、子育て、女子の役割、生涯の指針や子孫相続の肝要を述べる。③教訓御伽紙(きょうしんごたし) 中村源八郎(松本金水)作。天保14(1843) ▽父母の

大恩、孝子譚や忠孝・五常の訓話の紹介等、寓話逸話など短文の訓話を集めた絵入教訓書。④童子教訓(どうじきょうしん) 今堀高英(窓屋)作。弘化4(1827)

▽孝行・儉約・積善など徳目を主とした童蒙の心得となる説話や苦業・言葉の慎み・父母の恩など諸徳を説き略伝を載せた絵入教訓書。⑤庭訓(ていしん) 野津善平(信

言)作。安政6(1829) ▽食物や財物の節儉、四恩、正直な飲食、若年の艱難辛苦と家業出精、堪忍と謹慎、義理と実意、熟慮と決断等を説いた童蒙教訓書。

37卷【語彙】「6点」 ①古版字尽(こくばんじじゆん) 作者不明。寛永21(1644) ▽洛中洛外の地名・樹木名・草木名・僧侶名・名・魚名を収録。いずれも本文を大字・五行・

付訓で記す。②童子節用集(どうじせつようしゆ) 作者不明。明和7(1770) ▽元禄頃刊「節用集(二点)字尽入」の本文のみを抽出し付録記事を改めた改編版。イロハ引き

語彙集で本文を大字・五行・付訓で記す。③数量字尽重宝記(しゆりょうじじゆんじゆん) 黒井古井作。安政3(1822) ▽1〜30までの数量・名数関係の語彙を集めた往来物。

計200語収録。本文を大字・六行・付訓で記し語句の大半に用例などの略注を施す。④道具字引図解(どうぐじしん) 柳河春三(又玄斎南可ほか)作。元治

1(1864) ▽『商売往来絵字引』と手法で「神儒仏、朝武、農工商民家の用具、日用の器財」に関する語句を挿絵や略注と共に列挙した往来物。⑤品物名数抄(しんぶつなづかひ)

(しんぶつなづかひ) 松沢老泉作。江戸後期 ▽諸物の数量呼称(助数詞)を分類した語彙集。24類に分けて語彙を楷書・一〇行・稀に付訓で記し、それぞれの数量呼称を割注

で記す。⑥大和日用早学(やまとにちようさうがく) 成文堂書。江戸後期 ▽語彙と消息に関する記事を集めた往来。肥前の地名が見える。数量呼称、単位語、木材・衣類・

家財・日用品の名称と関連語等を収録。

38卷【語彙】「1点」 ①世説故事苑(せせつごしじゆえん) 子登編。正徳6(1716) ▽大阪の住職が様々な用語の故事や由来などを典拠を明示して詳述した事典。計423力条を和漢

諸書、特に仏書から多くの説を引いて解説。

39卷【語彙】「1点」 ①事物異名類編(じぶついみなみひん) 荒井公履編。文久1(1861) ▽清の『事物異名録』をイロハ・部類分けに改め、柴野栗山編『雑字類編』の体裁に倣っ

て初学者にも使いやすく編集した異名辞典。

40卷【年代記】「3点」 ①(日本・唐土)二千年袖鑿(にほんからうどにふたせんねんそくさく) 浜松歌園ほか編。嘉永5(1832) ▽挿絵を多く掲げ、故事や事件の年号と出版時までの年数を明

記する歴史便覧。硬軟交々の故事を扱い誰にでも楽しめることと宣伝している。②永代年代記大成(えいたいねんだいだいじゆう) 細河並輔編。弘化3(1826) ▽大化・幕末の雑多な故

事や事件を記した年代記。1丁で60年の升目を設け各年の主要事件を略述した年表等、歴古関連記事多数収録。③年代記絵抄(ねんだいじえいしやう) 作者不明。明治初年(1868)

▽1丁で32年分の升目に大化・明治5年の主要事件等を記し全年号に挿絵を施した年代記。天皇の一覧から雑多な記事まで掲げた。



第5回配本(33~40巻)



(37)



(36)



(33)

に及ぶ長文で説明し、徹頭徹尾平易を旨とする。

42巻【法令・教諭】「6点」 ①**父母状講釈**（ふぼじょうこうしゃく） 加藤重昌注。元文2（1733）▽紀州初代藩主が著し、長く藩の政教の根本とされ、寺子屋の手習本としても普及した「父母状」の注釈書。一言一句丁寧かつ平易に敷衍する。②**勸学筆記**（くわんがくひき） 溝口浩軒（直義・浩齋）作。安永8（1799）▽越後新発田八代藩主が著し領民に示した仮名書きの教諭書。聖学の根本を簡潔に述べ、学問が必要・重要なこと、志学のあらましを説く。③**久世条教**（きうせいじょう） 早川正紀（八郎左衛門）作。寛政11（1799）▽名代官・早川が設立した幕府代官地最初の教諭所で使用された農民教化用の教諭書。墮胎・間引きを戒め育児を奨励したことで知られる。④**みかげあぶぎ**（みかげあぶぎ） 徳川斉昭（烈公・景山）作。安政4（1853）▽巻頭に水戸九代藩主徳川斉昭の題字を掲げ、告諭・御教諭等を収録した教諭書。御影講（仰景講）の経緯と奇特を讀えた一文も収める。⑤**御触書読習**（ごふせきよみかみ） 作者不明。江戸後期。▽触書等の法令に頻出する公武の官職・官名・諸役人等の語彙と、その関連語や社会生活全般の用語を、若干の心得を所々交え列挙した往来物。⑥**教民の詞**（きょうみんのことば） 作者不明。慶応3（1867）▽中国宋代の思想家の教諭書を七五調の和文に改めた教諭書。長門国阿武郡当島の県令の求めにより記したとあり、領内各村に配布された。

43巻【礼法】「2点」 ①**三礼口訣**（さんれいこうけつ） 貝原益軒（篤信）作。元禄12（1699）▽蒙童初学者に対して食礼・茶礼・書札の要点を記した礼法書。礼は飲食に始まり、飲食の礼は日々に行うものでその緊要を集めたという。②**孝学食礼記**（こうがくしきれいき） 川瀬（河瀬）友山（菅原友山・孝学道人）作。江戸後期。▽京都の水火天満宮を拠点に民衆教化に努めた著者が、食事傾向による運氣・性格などを掲げ、神道に基づく食事の作法・意義・禁忌を述べた。

44巻【礼法】「2点」 ①**日用贈答書札辨惑集**（にちようそとうしよしよ） 上原茂雅編。明和3（1766）▽師伝の書札札を纏めた草稿を上梓。適宜図解を交えて解説し、五節句や通過儀礼等に伴う具体的な例文も掲げ、実用的な心得にも言及する。②**小笠原流・躰方絵本** 男重宝諸礼訓（おかしわらりゅうしよほうえほん） 鳥飼醉雅ほか作。寛政頃。▽『絵本諸礼訓』『人間』記憶秘法』『状文章』を集めて一冊とした教訓書。挿絵を交え簡潔に説く総合的だがより通俗的な礼法書。

45巻【教訓】「1点」 ①**主従心得草**（しゆじゆんこころぐさ） 寿福軒真鏡（西誉・安楽精舎）編。初編：文政6（1823）／二編：天保14（1843）▽主従が和合し一家が治まるための上下の心得を、諸書から抜粋、種々の俚諺・金言、教訓歌、故事・寓話を引いて平易に論じた絵入心学書。

46巻【教訓】「1点」 ①**主従心得草**（しゆじゆんこころぐさ） 三編（しゆじゆんこころぐさ） 寿福軒真鏡（西誉・安楽主人・安楽精舎）編。三編（しゆじゆんこころぐさ） 弘化4（1847）

47巻【教訓】「6点」 ①**絵本清水の池**（えほんしみずのいけ） 西川祐信画。享保19（1734）▽五倫にまつわる種々の心得や処世訓を詠み込んだ教訓歌を収め、挿絵と注釈も付した絵本。漢籍等から引用した教訓の趣旨を平易に説く。②**最明寺教訓百首**（さいめいじきょうくんひゃくしゆ） 葛飾北雅（山寺信之ほか）画。江戸後期。▽前掲『絵本清水の池』に収録した教訓歌を半丁に2首または4首ずつ配置した往来。和歌の配列に異同がある。③**ころの百首**（ころのひゃくしゆ） 久保倉弘政（橋弘政）作。天明6（1786）▽伊勢山田の歌人で神宮禰直が、各首に「心」の語を1、2語挿入して詠んだ蒙童向けの教訓歌集。教訓歌を踏まえた挿絵も掲げる。④**教訓百人一首戯絵解**（きょうくんひゃくにんしゆげえかい） 山田佐助（文会堂・久米千寿）作。天保頃。▽民家蒙童の心得となる名歌50首（半丁一首）と金言50句（半丁一句）を挿絵（半丁一葉）と共に掲げたもの。⑤**一休禪師**（いっしゆぜんじゆ） 世の中百首（よのちひゃくしゆ） 鼻山人編。江戸後期。▽一休禪師作と伝えられる教訓歌を集めた小冊子。序文に「道徳兼備の知識にして古今未曾有の名僧」が居間の壁に書き残したものとある。⑥**嘉永新刻**（かえいしんこく） 世の中百首（よのちひゃくしゆ） 玄魚序。嘉永頃。▽一休禪師が晩年、戯れに作ったという道歌に挿絵を添えた往来物。庶民風俗を描いた挿絵と共に載せる。前掲書とは全くの異本。



48巻【教訓】「7点」 ①**教訓**（きょうくん） 拾ひ歌（しゆひうた） 川合元（申甫）編。天明3（1783）▽心学書その他通俗教訓書からの抜粋等を書き集めた道歌集を元に校訂を加え、さらに金言・佳句の類を盛り込んで一冊に編集し出版したもの。②**天万里字多**（あまのりしよた） 野田成勝作。文化14（1817）▽古くから宮中に伝わる手鞠歌と、新たに著者が作った手鞠歌・数え歌を収めた蒙童向けの書。③**道歌砂の戯**（みちうたすなご） 白木大和上作。天保4（1833）▽阿弥陀仏の救いを信じ、極楽往生を願う「安心」の境地を論ず道歌を問答形式で掲げた教訓書。道歌の主旨を描いた挿絵を施す。④**しの字嫌さとし歌**（しのじゆげなさとしうた） 真阿作。文化9（1832）▽七五、七五と続く文章の各句の第一音が「し」で始まる長歌形式で、語句を盛り込みながら日常生活や信仰上の心得を種々論じた浄土宗系教訓書。⑤**道歌教訓・童蒙早合点**（みちうたきょうくんどうもうさあひてん） 一休狂歌雀（いっしゆきやうかすずめ）作。天保9（1838）▽一休が詠んだという道歌を集めた絵入り教訓書。半丁毎に挿絵を伴う道歌1首を下段に置き、その上段に道歌6首を列挙する。⑥**道歌教訓・童蒙早合点**（みちうたきょうくんどうもうさあひてん） 狂歌雀後篇（きやうかすずめご）作。天保10（1839）▽前掲書の続編として編まれた教訓書だが、道歌の間に教訓文も交えほとんどの挿絵が道歌を伴わない点で異なる。一休の故事・訓話等も交える。⑦**子供遊・親手助**（こどもあそびおやてすけ） 孝行雀（たかゆきかすずめ）作。天保10（1839）▽孝子伝や教訓歌などを集めた絵入り教訓書。上段に解説文を小字・一六行・付訓で記し、下段を見開きの挿絵とする。



49巻【教育】「3点」 ①**武小学**（ぶがく） 伊南芳通（杉岸芳通・止戈学士）作。貞享3（1686）▽会津藩士の兵法家が、平和な社会と民生の安定こそが武士の存在理由とする説に基づき、徹底した修己と武人教育等を説いた藩士向の教訓書。②**幼童便蒙**（ようどうべんもう） 前集（ぜんしゆ） 鈴木百淵（文中堂ほか）作。安永5（1776）▽武州幸手の心学者・手習師匠が「よみ安く、さとし安き」を旨に著した教訓書。身を修むる道、身を損なう道等を掲げる。③**人教**（にんぎょう） 六方礼経附（ろくほうれいきょうつづき） 空谷智載作。文化11（1804）▽在家信者の世俗倫理を説いた原始仏教「六方礼経」を和語に改め、邦訳と共に編者の平易な注釈を添え挿絵を施したものの。



50巻【教育】「2点」 ①**授業編**（じゆぎょうへん） 江村北海（綏・君錫ほか）作。天明3（1783）▽専ら童蒙のために卑近俗事の語で学問の大意を述べたもの。諸書・諸説を引きながら初学者の学問上の心得や諸注意を懇切丁寧に論ず。②**さとし草うひ山口**（さとしくさうひやまぐち） 後藤正速作。長嶋晃景画。江戸後期。▽駿河城副守の主君に随行した著者が著した、小児が2、3歳頃から自然と聞き覚える幼児語に教訓の意を添えた絵入りの教訓書。



51巻【教育】「4点」 ①問合早学問(もんあわせまなぶ) 大江玄圃作。明和3(1766)▽漢学入門者のために仮名書きで学問の要点を記した書。平易で親しみやすい学問から徐々に高めていく方法を丁寧かつ具体的に教える。②父兄訓(ちちあにのしん) 林子平(友直・六無齋)作。天明6(1786)▽孝・悌・忠・信・勇・義・廉・恥の八徳に基づく育児の基本を父兄に諭した書。子弟の善悪・邪正の九分までは父兄の責任と強調。③てみやげ 小町玉川(雄八・玉成)作。天保6(1835)▽関東各地を遊歴し漢学や詩文を教えた作者が、子育ての秘訣や年代別教育論などを説いた書。子どもが死と向き合う大切さも述べる。④女学校発起之趣意書(おんながっこうはつぎのしゆいしょ) 奥村城山(喜三郎・増地)作。天保8(1837)▽著者は増上寺領の地方役人。「女学校」の語を用いた最初の著作とされ、徳育中心の良妻賢母主義教育の先駆として注目される。

52巻【地誌】「2点」 ①人国記(ひとくにき) 関祖衡(平祖衡・木齋)作。元禄14(1701)▽越前の地誌学者が、旧『人国記』を補訂し各国住民の気質・風俗の特徴を述べた地誌で、日本人の地域性を総説した最古の地図入り文献。②長崎土産(ながさきみやげ) 磯野信春(文齋・文齋堂ほか)作。弘化4(1847)▽長崎の浮世絵師兼書肆が著した案内書。異国人風俗や風景・風物の挿絵を掲げ、名所図会で流行した精密な鳥瞰図や斬新な遠近法も採用。

53巻【地誌】「3点」 ①松島図誌(まつしまずし) 桜田虎門(桜田質ほか)作。文政4(1821)▽松島の名所旧跡の数々を紹介した案内書ながら、伝承や諸説を鵜呑みにせず、考証し「観るにたらず」と一蹴する記述も見られる。②江戸名所花暦(江戸なまところばなごよみ) 岡山鳥節(亭琴驢)編。長谷川雪旦(宗秀)画。文政10(1827)▽江戸府内と近郊の花鳥風月・風物を四季毎に紹介した案内書。花の見頃や縁日・故事来歴・遊覧心得等の関連情報や風景画も掲げる。③皇都靈跡志(こうとれいせきし) 僧純(正聚房)作。梅川東居(東居)画。安政5(1853)▽親鸞聖人六百回大遠忌を前に、由来する京都の霊跡12カ所を紹介した書。逸話を交えたり諸文献の記述に触れながら故事来歴等を綴る。

54巻【外国地誌】「1点」 ①増補華夷通商考(ぞうほくわあいつうかう) 西川如見(求林齋ほか)作。宝永6(1709)▽『異国風土記』や『職方外紀』等に依拠し長崎で得た情報も加味した日本初の本格的な世界地誌。来航する唐人等の記事や唐船各図も掲げる。

55巻【外国地誌】「1点」 ①坤輿図識(正編)(こんいづしき(せいへん)) 箕作省吾(寛ほか)編。弘化2(1845)▽本邦初の世界地図『新製輿地全図』の刊行者が、解説書として編んだ世界地誌。内憂外患の幕末期に海外情勢を把握する重要な書とされた。

56巻【外国地誌】「1点」 ①坤輿図識(補編)(こんいづしき(ほへん)) 箕作省吾(寛ほか)編。弘化3(1846)▽単なる補遺に止まらず、各国の政治体制や経済・交易・軍備など国力・軍事力の実情や宗教・文化的特徴などに踏み込んだ記述が目立つ。

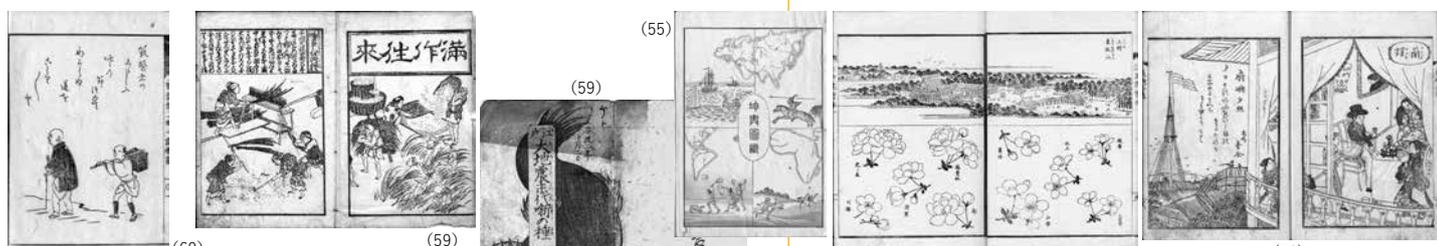
57・58巻【教訓】「1点」 ①為人抄(いひょう) 苦甜齋守株(中江藤樹力)作。寛文2(1662)▽作者志学の15歳頃から書き集めた聞き書きに、和漢の聖賢・偉人等の故事や和漢書の金言等を交えて初学者の心得を平易に説く教訓書。

59巻【救荒・防災】「10点」 ①鎮火用心集(ちんかしんじゅう) 頓宮仲左衛門(頓宮笑月ほか)作。享保16(1731)▽作者の見聞に基づき主として商家における防火・消火の心得を書き記した心得書。「回禄用心集」と「平生心懸置べき事」から成る。②御薬方書(ごやくほうしょ) 作者不明。天明4(1784)▽享保飢饉の対策として被災地に頒布された『薬法書』を修正した『薬法書付』を一部削除・改変し簡素な内容で上梓した小冊子。③かてももの 荳戸善政(大華)ほか編。享和2(1802)▽天明の大飢饉を前に米沢藩主・上杉鷹山の命を受けた重臣が指揮を執り、飢饉時に備える代用食の調査・研究を踏まえ編纂した救荒書。④救荒須知録(きうかうしゆちりく) 凌雲居士作。天保4(1833)▽救荒作物を始め備荒および飢饉時の諸心得を記した救荒書。天保の大飢饉の被害が甚大であった東北地方の民衆をいち早く啓発した。⑤救荒論(きうかうろん) 作者不明。江戸後期。▽飢饉時の救荒作物の食用加工・調理・保存法や禁忌等の他、代用食、解毒法、粗食の工夫など飢饉時の養生法にも触れる簡易な救荒書。⑥「飢食三益」家宝往來(きうじきさんえきかひおうらい) 作者不明。天保5(1834)▽粗食・微食を主とする儉約心得を載せた往來物。三度の食事の一回を粥にする延寿のための養生・儉約法が庶民困窮の助になる等と諭す。⑦きょん心得種(きょんしんじつたぐ) 山岡霞川(其月齋)作。天保7(1836)▽干魃・天候不順・水損等による凶作への備え等、農民の心得や、大飢饉の惨状や幕府の対応を教訓に勤儉や備荒の重要性を論じた往來物。⑧地震百人一首(ちしんひゃくにんいっしゅ) 鈍中納言破家卿作。明和3(1766)▽百人一首の歌人を用いて明和津軽地震を詠んだ狂歌。百人一首のパロディは数多いが、実際に起きた地震を題材にした点が異色。⑨「江戸」大地震未代噺の種(えどおおじしんまつだいなはのたね) 作者不明。安政頃。▽安政江戸地震の経緯や江戸府内各地の建物・人命の被害状況・経過、被災者、自然現象、逸話、幕府の救済措置等をまとめた絵入り冊子。

⑩「大江戸」地震後教(おほえどおおじしんまつだいなはのあきづからしんごう) 休庵齋作。安政頃。▽『実語教』の文言に似せて安政江戸地震後の模様などを記した往來物。被害状況や罹災者への援助、地震に對する心得等も含む。

60巻【神道】「6点」 ①神風恵草(かみかぜのくさ) 新松忠義(忠問・守柱翁)作。享保9(1724)▽八幡大菩薩・天照皇大神宮・春日大明神の「三社託宣」それぞれの意味を問答体で詳述し、極めて詳細に考証を加え独自の見解を示した書。②天地恵(あめのみこ) 九嶋義保(不学自性居士。天惠齋力)作。画。文化1(1804)▽神儒仏に通じた作者が「女わらべによるづ冥理を知らしめんため」に詠んだ道歌を主とする教訓書。既刊『天の恵』を大幅に改編したもの。③竈神秘説(かまごひめいせつ) 玉田永教作。文化4(1807)▽火を扱う場所を司る竈神や五穀・食物を司る神等の由来や諸説等を紹介。考証を通じて誤謬や迷信を排し、禁忌や祭礼等にも言及。④「神儒仏」三教和談(さんけうわだん) 大森三楽(不明堂)作。天保4(1833)▽究極において神道・儒教・仏教の三教は一つであると、三教一致の道理を順々に説き、寓話・道歌等も交えて平易に論じた教訓書。⑤民家敬神録(みやけいしんろく) 城戸千楯(大江千楯)作。天保11(1840)▽種々の「神書」などを参酌して、神を祭る意義、不浄を避け穢れを祓う、先祖供養等、神道の基本的な心得を簡潔に説いた書。⑥三界一心記図会(さんがいしつしんきずゐ) 春屋織月(真脱庵・為麻絢)作。嘉永2(1809)▽上河淇水の未完書を門弟が補述・公刊した絵入り教訓書。万物の根元、陰陽和合、本心を知ること等を種々の故事や寓話を引いて諭す他。

60巻【神道】「6点」 ①神風恵草(かみかぜのくさ) 新松忠義(忠問・守柱翁)作。享保9(1724)▽八幡大菩薩・天照皇大神宮・春日大明神の「三社託宣」それぞれの意味を問答体で詳述し、極めて詳細に考証を加え独自の見解を示した書。②天地恵(あめのみこ) 九嶋義保(不学自性居士。天惠齋力)作。画。文化1(1804)▽神儒仏に通じた作者が「女わらべによるづ冥理を知らしめんため」に詠んだ道歌を主とする教訓書。既刊『天の恵』を大幅に改編したもの。③竈神秘説(かまごひめいせつ) 玉田永教作。文化4(1807)▽火を扱う場所を司る竈神や五穀・食物を司る神等の由来や諸説等を紹介。考証を通じて誤謬や迷信を排し、禁忌や祭礼等にも言及。④「神儒仏」三教和談(さんけうわだん) 大森三楽(不明堂)作。天保4(1833)▽究極において神道・儒教・仏教の三教は一つであると、三教一致の道理を順々に説き、寓話・道歌等も交えて平易に論じた教訓書。⑤民家敬神録(みやけいしんろく) 城戸千楯(大江千楯)作。天保11(1840)▽種々の「神書」などを参酌して、神を祭る意義、不浄を避け穢れを祓う、先祖供養等、神道の基本的な心得を簡潔に説いた書。⑥三界一心記図会(さんがいしつしんきずゐ) 春屋織月(真脱庵・為麻絢)作。嘉永2(1809)▽上河淇水の未完書を門弟が補述・公刊した絵入り教訓書。万物の根元、陰陽和合、本心を知ること等を種々の故事や寓話を引いて諭す他。



〈各巻 分売価格表〉

巻	[ジャンル] 収録資料点数 / 内容 (頁数)	ISBN	本体価格 (税別)	ご注文 チェック欄 ✓
1巻	[女性百科] 女芸文三才図会 (540頁)	978-4-86688-001-3	19,000円	
2巻	[女子教訓] 2点 / 女要訓和歌文庫他 (280頁)	978-4-86688-002-0	9,500円	
3巻	[語彙] 2点 / 万宝女節用器粟囊他 (350頁)	978-4-86688-003-7	12,000円	
4巻	[女子教訓] 3点 / 婦人教訓・女今川伊呂波文他 (290頁)	978-4-86688-004-4	10,000円	
5巻	[風俗・遊女] 3点 / 漫画百女他 (330頁)	978-4-86688-005-1	11,500円	
6巻	[諸芸] 4点 / 当流謡指南抄他 (300頁)	978-4-86688-006-8	10,000円	
7巻	[暦占] 3点 / 天竺靈感観音籤他 (290頁)	978-4-86688-007-5	10,000円	
8巻	[遊戯] 4点 / 秘事百撰他 (380頁)	978-4-86688-008-2	13,000円	
9巻	[仏教(臨終行儀)] 3点 / 孝養集他 (510頁)	978-4-86688-009-9	18,000円	
10巻	[仏教(往生)] 3点 / 女人往生章他 (320頁)	978-4-86688-010-5	11,500円	
11巻	[仏教(仏教一般)] 4点 / 孝子善之丞感得伝他 (320頁)	978-4-86688-011-2	11,500円	
12巻	[仏教(放生)] 6点 / 商家繁栄・農家豊作・重宝記他(450頁)	978-4-86688-012-9	16,000円	
13巻	[語彙(通俗辞書)] 3点 / 畳辞訓解他 (330頁)	978-4-86688-013-6	11,500円	
14巻	[語彙(通俗辞書)] 4点 / 寺子節用錦袋鑑他 (390頁)	978-4-86688-014-3	13,500円	
15巻	[俚諺(俚諺一般)] 4点 / 漢語大和故事他 (400頁)	978-4-86688-015-0	14,000円	
16巻	[俚諺(道歌等)] 2点 / 和漢詞徳抄他 (330頁)	978-4-86688-016-7	12,000円	
17巻	[養生] 6点 / 養生百種他 (430頁)	978-4-86688-017-4	15,500円	
18巻	[養生] 5点 / 病家示訓他 (460頁)	978-4-86688-018-1	16,500円	
19巻	[産育] 4点 / 児相素見他 (430頁)	978-4-86688-019-8	15,500円	
20巻	[産育] 6点 / 老婆心書他 (510頁)	978-4-86688-020-4	18,500円	
21巻	[教訓] 5点 / 善悪道中独案内他 (380頁)	978-4-86688-021-1	13,500円	
22巻	[教訓] 4点 / むかしありしこと他 (310頁)	978-4-86688-022-8	11,000円	
23巻	[教訓] 3点 / 農家童子訓・海隅田舎草紙他 (430頁)	978-4-86688-023-5	15,000円	
24巻	[教訓] 2点 / 忠孝道の栞他 (400頁)	978-4-86688-024-2	14,500円	
25巻	[家政] 3点 / 万宝智恵袋他 (310頁)	978-4-86688-025-9	11,500円	
26巻	[家政] 2点 / 大全針刺宝他 (480頁)	978-4-86688-026-6	18,000円	
27巻	[家政] 錦囊智術全書(一～三冊) (340頁)	978-4-86688-027-3	12,500円	
28巻	[家政] 錦囊智術全書(四～七冊) (320頁)	978-4-86688-028-0	11,500円	
29巻	[家政] 4点 / 料理秘伝抄他 (320頁)	978-4-86688-029-7	12,500円	
30巻	[教訓] 2点 / 民家分量記他 (490頁)	978-4-86688-030-3	18,000円	
31巻	[教訓] 4点 / 貝原先生家訓他 (320頁)	978-4-86688-031-0	12,000円	
32巻	[教訓] 訓蒙勸孝録 (520頁)	978-4-86688-032-7	19,000円	
33巻	[教訓] 4点 / 堪忍袋他 (340頁)	978-4-86688-033-4	13,000円	
34巻	[教訓] 5点 / ふみ鏡他 (360頁)	978-4-86688-034-1	14,000円	
35巻	[教訓] 4点 / 利運談他 (380頁)	978-4-86688-035-8	14,500円	
36巻	[教訓] 5点 / 童子常の心得他 (360頁)	978-4-86688-036-5	14,000円	
37巻	[語彙] 6点 / 古版字尽他 (320頁)	978-4-86688-037-2	12,000円	
38巻	[語彙] 世説故事苑 (380頁)	978-4-86688-038-9	14,500円	
39巻	[語彙] 事物異名類編 (380頁)	978-4-86688-039-6	15,000円	
40巻	[年代記] 3点 / 日本・唐土・二千年袖鑿他 (380頁)	978-4-86688-040-2	15,000円	
41巻	[法令・教諭] 4点 / 御当家御制法他 (340頁)	978-4-86688-041-9	13,000円	
42巻	[法令・教諭] 6点 / 父母状講釈他 (320頁)	978-4-86688-042-6	12,000円	
43巻	[礼法] 2点 / 三礼口訣他 (330頁)	978-4-86688-043-3	12,500円	
44巻	[礼法] 2点 / 日用贈答・書札辨惑集他 (410頁)	978-4-86688-044-0	15,000円	
45巻	[教訓] 主従心得草(初・二編) (480頁)	978-4-86688-045-7	17,500円	
46巻	[教訓] 主従心得草(三～五編) (570頁)	978-4-86688-046-4	21,000円	
47巻	[教訓] 6点 / 絵本清水の池他 (330頁)	978-4-86688-047-1	12,000円	
48巻	[教訓] 7点 / 教訓・拾ひ歌他 (320頁)	978-4-86688-048-8	12,000円	
49巻	[教育] 3点 / 武小学他 (390頁)	978-4-86688-049-5	15,000円	
50巻	[教育] 2点 / 授業編他 (400頁)	978-4-86688-050-1	15,500円	
51巻	[教育] 4点 / 間合早学問他 (350頁)	978-4-86688-051-8	13,500円	
52巻	[地誌] 2点 / 人国記他 (350頁)	978-4-86688-052-5	13,500円	
53巻	[地誌] 3点 / 松島図誌他 (440頁)	978-4-86688-053-2	16,500円	
54巻	[外国地誌] 増補・華夷通商考 (460頁)	978-4-86688-054-9	14,000円	
55巻	[外国地誌] 坤輿図識・正編 (310頁)	978-4-86688-055-6	12,000円	
56巻	[外国地誌] 坤輿図識・補編 (400頁)	978-4-86688-056-3	15,000円	
57巻	[教訓] 為人鈔(一～五巻) (340頁)	978-4-86688-057-0	13,500円	
58巻	[教訓] 為人鈔(六～十巻) (350頁)	978-4-86688-058-7	13,000円	
59巻	[救荒・防災] 10点 / 鎮火用心集他 (360頁)	978-4-86688-059-4	14,000円	
60巻	[神道] 6点 / 神風患草他 (450頁)	978-4-86688-060-0	17,500円	
別巻	「江戸庶民」の生活を知る(解題・索引) (660頁)	978-4-908926-02-0	28,000円	

ご希望に応じて
求めたい巻・分野・内容
から選べます。

*たとえば……

社会、経済、産業、教育、
道徳、生活、民衆、女性、
風俗、宗教、歴史、医学、
出版、ことば、伝記、家政、
養生、諸芸、防災、図像…

様々なテーマから
ご専門・ご関心の巻を
選んで…

ジャンル セット	巻	本体価格 (税別)
宗教 (仏教・神道) セット	[計6巻] 9～12, 60巻	74,500円
語彙 セット	[計6巻] 3, 13, 14, 37～ 39巻	78,500円
女性・女子 (産育・家政他) セット	[計11巻] 1, 2, 4, 5, 19, 150, 200, 205～29巻	150,000円
教訓 セット	[計19巻] 2, 4, 21～24, 30 ～36, 45～48, 57, 58巻	267,000円

…もちろん、この中の数冊でも…

◆ご予算、目的に合わせて
お求めください。

江戸時代庶民の生活感覚に直に^{じか}触れる一大叢書

いまに活かせる庶民の知恵が眼前に展開！

江戸時代庶民文庫

〈第1期〉全60巻＋別巻1(解題・索引)

解題・小泉吉永(法政大学^(法政大学)講師)

江戸時代の生活分野に関する

あらゆる研究に有益この上なし！

教育・民衆・女性・生活・社会・風俗・芸能・
医学・経済・宗教・絵画・出版…の歴史、美術・
イラスト・デザインの素材…

特色

- ◆ 稀覯・新発見資料を多載
- ◆ 挿画・図版が豊富な史料を多載
- ◆ 鮮明印刷の版本「影印版」
- ◆ 充実の「別巻(解題・索引)」

配本	発行	ISBN	本体価格
第1回 8巻(1～8巻)	2012.11	978-4-283-01002-4	95,000円
第2回 8巻(9～16巻)	2013.5	978-4-283-01003-1	108,000円
第3回 8巻(17～24巻)	2013.10	978-4-283-01004-8	120,000円
第4回 8巻(25～32巻)	2014.6	978-4-283-01005-5	115,000円
第5回 8巻(33～40巻)	2015.1	978-4-283-01006-2	112,000円
第6回 8巻(41～48巻)	2015.6	978-4-283-01007-9	115,000円
第7回 8巻(49～56巻)	2015.11	978-4-283-01008-6	115,000円
第8回 4巻(57～60巻)	2016.6	978-4-283-01009-3	58,000円
別巻 1巻(「江戸庶民」の生活を知る)	2016.12	978-4-908926-02-2	28,000円

発行：第1～60巻(大空社)、別巻(大空社出版)

〈全60巻・別巻1〉全巻揃 866,000円

(※各巻分売価格は11ページ参照)

ご好評につき
「第2期」全40巻
(61～100巻)
刊行開始！

詳細案内進呈
*下記へご請求を



全巻・大好評発売中！

体裁：A5判・上製・クロス装

学術資料出版

大空社出版

©OZORASHASHUPPAN 2018

東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
www.ozorasha.co.jp / eigyo@ozorasha.co.jp

・お取扱い